

第41回 議会改革推進特別委員会記録

令和6年10月28日（月）

開議 10時 02分

閉議 11時 13分

全員協議会室

【委員】 牛尾委員長、西田副委員長

三浦委員、村武委員、小川委員、布施委員、佐々木委員、田畑委員

【議長団・委員外議員】

【事務局】 下間局長、松井次長、小寺書記

議題

1 議会による事務事業評価について

(1) 試行の反省

2 島根県立大学との連携について

(1) 包括協定締結の検討状況

3 その他

(1) 検討項目の整理

○次回開催 令和6年11月26日（火）午前10時から

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 02 分 開議]

○牛尾委員長

第41回議会改革推進特別委員会を開会する。本日は村武委員から欠席届が出ており、三浦委員は少し遅れるとのことなので早速議題に入りたい。

1 議会による事務事業評価について

(1) 試行の反省

○牛尾委員長

事務局から説明をお願いする。

○小寺書記

(以下、資料を基に説明)

○牛尾委員長

では、まず布施委員から。

○布施委員

皆の中で全般的に事務事業評価をすることによって事業への関心がより深まった。今回は試行ということで1委員会につき1事業に絞ったが、来年から本格実施するに当たって委員会で二つ三つやる場合は、委員会での意見書を集約する時間が足りないと思った。今回は附帯決議案としたが、通年やっている附帯決議とあまり変わらなかったと感じた。来年からは評価意見書として出すので、審議した内容は委員会によって二つ三つしっかり出てくるのではないかと期待している。全体としては以上のような感想だが、評価意見書を出したときに執行部がどれだけ真摯に受け止めて次年度の予算組みや事業構築をしていくか、不安な部分もあった。

○佐々木委員

まずどの事業を選ぶかで、何をもって選んだか、選ぶことから難しかったという意見があった。確かに時間がない中での事業選定、あるいはその後の委員会内での質疑だったので、結論を出すのが難しかった。本格導入になれば事業を選ぶ段階からしっかり協議して、各委員会内で選んだ事業もしっかり審査して最終的に決算審査で突き詰めていくのでその辺は少し解消されるかとは思いますが、今回はそういった課題が少し気になった。

○田畑委員

どの事業を選ぶか大変難しい面もあったし、時間的な余裕がなかったので少し厳しかったのではと思っている。今回は初めてのことで試行だったが、もし来年もこれからずっとやるのであれば時間的にゆとりがあるような運び方をしたほうが良い。

○小川委員

試行ということで、予算決算委員会での委員長の前振りなどもあったので、審査段階でも委員が集中できたのではないかと思う。今までは発言通告した人だけの認識

によって審査が進んでいたことからすると、全委員がそこに集中できたのはすごく良かった。発言通告した人だけでなく、全委員がその内容を通して評価でき、各委員の意見からの学びもあったのではないかと思う。こういうことを通じて議会としての決算審査の充実が図られた意義は大きいのではないかと思った。

最後の決議案を作る段階での作業時間があまりなく、何となく中途半端で終わってしまったが、あくまで試行であって時間配分等も含めて今後の本格実施の段階では検討すべき部分だと思った。

○西田副委員長

試行ということで委員によって意識や理解度のばらつきはあったと思うが、おおむねは想定内だったかと思う。課題もいろいろ浮彫りになったのは、本番に向けて良かったと思う。これまでの決算審査の附帯決議あるいは附帯意見等々、焦点をより事業に絞って深掘りして、そこに集中できるのは一歩前に進んでいる気がする。

○牛尾委員長

試行によって気づいたこと、まとめなければいけないことは分かったと思う。

改善されれば賛成という意見が5名おられるので、その辺についても皆から意見をいただきたい。

三浦委員は「前提の考え方にばらつきがある」と書いている。沖田議員は「事業選定が何をもって何の事業なのか」と書いているが、初めてなのでそういうことはあったと思う。村武委員は「評価意見書の作成時間が足らなかった」、柳楽議員は改善されれば賛成としているが意見はないようである。

○小寺書記

もしかしたら柳楽議員は「評価後の流れに関して認識の差があったのでそこについては統一の認識が必要と感じた」ということかもしれない。

○牛尾委員長

そういうことか。試行だからそういうことはあるかもしれない。串崎議員は「予算決算委員会ですら十分しているため事業評価は必要ない」と書かれているが、委員会審査と事務事業評価は違うので、会派内でレクチャーしてもらいたい。

○布施委員

反対の部分はあるが、大谷議員や岡本議員は、評価しつつも今の附帯決議の中で時間を設けてやってきた。評価意見書になれば予算決算委員会の中で評価意見書を表明してくれということで、委員会ごとに指名した。その中で、附帯決議案として残すのは何が良いかと言ったら、そこまでしなくても良いという委員会もあれば、産業建設委員会のようにせっかく試行したのだから附帯決議の中で文言を変えてでもやってくれという意見もあった。意見書には委員会としてのまとめがそのまま出てくるので、それなら分かる。しかし少しごたごたしたという話があり、その延長線上での反対もあった。したがって事務事業評価について我々特別委員会は、先進地に行くなど事前に細かくやっている関係で、会派に伝えたときの温度差は否めない。その辺の考えの差があったのではと思う。最初から100%になるわけではない。反対があつての改善

がある。真っ向からの反対ではないと受け止めている。

○小川委員

布施委員の言われるとおりで、議会改革を進めるスピードにも違和感がある。やる方向は良いがきちんとした合意形成を。会派内でも意義について認識を持ちながら少しずつ進めていきたいのだが、今回試行と言いながらもほとんど本格実施に近い形だった。試行なら評価をそこまで煮詰める必要があるのかといったことを感じておられる。もう少し合意形成しながら議会全体で進むべきではないかというのが基本的な考えである。

私も書いているが、例えば資料閲覧についても本来ならテーマが決まってから閲覧申請をするのだが、あまりにも時間がなくてほとんどできなかった。そういう中途半端な中で最終的に決議案まで持っていくのは少し無理があったのではないかという意見があった。そこは丁寧にやれば合意が得られるのではないか。

○牛尾委員長

ここ5年の予算決算委員会を見ていると、資料閲覧をされる議員が少ない。決算資料を見て、その中から読み取れるものがたくさんあるのだが、以前に比べて欠けている。予算決算委員会をやるときは事前に資料チェックしないと、出てくる報告書だけでは読み取れないことは山ほどある。資料閲覧をしっかりとやった上で審査しないと、決算審査そのものが名前だけで終わってしまう気がする。

肥後議員も書いているが、当委員会メンバーは進んでしまうので、会派へ持ち帰って報告してもらっても感覚のずれはどうしてもある。やっていながら改善していくしかないような気がする。評価対象の検討時期を早めることは早くやらないと無理だと思う。肥後議員は全体的にうまく改善点を書いておられるので分かりやすい。総合振興計画と対比しながらチェックする必要があるというのも同意である。

試行して初めて見えたことはたくさんあった。次年度に本格実施するならば、ここで指摘されているようなことは当然クリアしなければいけない。本格実施に当たっての入り口として、例えばもっと早くから委員会で事業を決めなければいけないなど、そういうことから話をしたほうが良い気がするのだがどうだろうか。

○小寺書記

皆の意見の中からだが、もともと今回の試行と7年度に想定している本格実施では全然違うところが多々ある。今回の試行で確認してもらいたかったのは、どういった作業が必要なのかを分かっていたら、それによってどれくらいのスケジュール感でできるのかを今後協議していくことが主なねらいだった。もともとの想定だと3月に事業決定なので、先ほどからあった評価対象事業の検討時期といったことは今の想定だと3月にできたら良いと思っているものである。

協議時間が足りなかったのではというのも、3月に決定していれば4月から8月まで5か月ある。

今回は評価意見書を作ってくださいそれを附帯決議にしたわけだが、今回はもともと評価するまでで、良いものができたらそのときに附帯決議にするかまた考えよう

という試行だったので、そこは未確定な部分だったかと個人的に思っていたので、皆のその場の協議内である形になったのは仕方なかったと感じている。

したがって今後会派に持ち帰ってもらって協議できたら良いので、今日の特別委員会はどういったことを持ち帰ってもらうか決められたら良いと思っている。

○牛尾委員長

改善点の中で肥後議員が書いているところを少し参考に。3月定例会議後半に委員会でやってもらうのが良いかと思うのだが、皆はどうか。

○佐々木委員

書記が言われたとおりで思っている。今回あまりに端折り過ぎて、結論ばかり求めた。そういう議論になってないのにそれをやるというのは非常に無理があった。事業を選択するにもどのタイミングでやるかは今後検討に値するかもしれない。当初予算審査の後か、その前か。おそらく審査をする常任委員会の中だけではとてもできそうな時間はないので、多分どこかで時間を別に持ってやる。まず意識を持ってそこに臨まないと、どれにしようかでまた長引くので、その辺のタイミングは各会派で周知する必要があると思う。選んでしまえば、後は所管事務調査を通して何か月か調査するので割とスムーズな流れになっているのではないか。最終的に附帯決議にするかどうか、その流れで皆の意見がどうなるかは議論するところではないかと思う。

○牛尾委員長

例えば3月くらいからやるにしても事業選択に当たっては過年度事業になるとの共通認識を持つなど、前提条件を一緒にしておかないとまた話がずれてもいけない。

○布施委員

各委員会の取組課題がある。集中的に委員会内で議論をしてきている。その部分は予算を十分審議する必要がある。事業内容も見なければならない。単年度事業もあれば継続事業もあると思う。福祉環境委員会には継続的事业が多い。三つやると次をどうしようかという話になってしまう。しかし事務事業評価のために無理して三つ上げるといのもいかなものかという話にもなると思う。事業評価を行う事業がなかったからダメなのではなく、あればやるという考え方に持っていけないと、本格実施後に無理に出したり、出さなかったからどうのと言ったり、一つでも二つでも良いとしたり、その辺を決める。時間の問題は日数を確保すれば良い。資料閲覧も早く取り組めばそれに関心がある方は数字を確認したり、どういった組織が関わっているか確認したり、どういう配分だったかを調べたりできる。その辺を当特別委員会として、予算決算委員会の中でこういう問題があったとしっかり言っただけで、各議員の取組姿勢は変わってくるのではないか。

○牛尾委員長

事業数について、二つ、三つ、五つまでの意見があったように思う。無理してやることはないだろうが、一つではまずいと根拠はないながら思っている。せめて二つか三つくらいの線でやるべきだと思う。あまり皆に最初から負担感を与えてもいけない。やっていけばもっとやりたいという意欲が出てくる気がするので、そういうスタ

ートは良い気もする。その辺はどうだろうか。

○田畑委員

たくさんやれば良いということでもないが委員会が定めることである。それを決める時期がいつか、資料閲覧要求がいつまでかを決めないと。時間的にゆとりがないと突っ込んだ調査もできない。例えば来年4月末くらいに委員会ではもう事業評価する案件をいくつか絞って資料閲覧を8月中旬には出してもらおうといったような仕組みでやらないと、良いこともできない。

○牛尾委員長

事業選択を委員会に任せたいほうが良いということか。例えば産業建設委員会は二つだが福祉環境委員会は三つやるとか。皆はどうか。

○佐々木委員

委員会でやれば良いと思う。ただ、問題がないのに出さないといけないからといって無理やり問題を作り上げるようなことはやってはいけない。これは大前提。大した問題がないのに上げたら執行部に迷惑になる。事業について問題があるのは、議論するまでに各議員が一般質問や予算審査で取り上げてきたがどうもおかしいというものを、資料閲覧や自分たちで探して、出たものを委員会で協議して、確かにそうだという事になれば、それがテーマになると思う。その辺はしっかり決めたほうが良い。

○西田副委員長

議会による事務事業評価をやる目的、最終的には何のために事務事業評価をやるか、そこを明確にして議員全員に共通認識として持っていただくことを第一にやらなければいけない。徐々に上がっていく。最初から形を目的に上がっていくのでは足元がおぼつかない。自然発生的に浮かんできたいろいろな事業、個人の思いではなく議会全体として、良くなるための事業評価をすれば良い。評価事業は数の問題ではない。

○小川委員

流れは皆が言われるとおりで良いと思うが、気になっていたのは参考にした小松島市の状況。視察などでいろいろ意見交換する中で、全事業に対して議員ならきちんと評価すべきではないかということが前提で、決算書類が出されてからは全事業を個人的に評価した、その経験に基づいて提案があり、だったら議会全体でもそのようなことをすべきではないかという流れがあったように思った。したがって議員ならそういう視点を持ちながら全員がこの部分はやったほうが良いという部分があれば、その事業を選定する流れが良い。

○牛尾委員長

小松島は確か36事業だった、翌日行った那賀町が16。しかし最低一つはやらしてもらわないと。例えば一つ以上を委員会の総意で決めてやらしてもらおうなど、大まかなたたき台で持ち帰ってもらえるか。

○西田副委員長

事務事業評価は先ほどから、3月定例会議くらいで事業を決めるのは良いと思う。どのように事業が施行されて実際どのような結果になっているか、市民の声はどうだ

ったか、そういったところは1年で議員の中にもいろいろな情報として入っていると思うので、ある程度各事業がどうだったかはつかんでいるのではないかと。1年間の事業を振り返って、委員会内である程度共通した複数事業を協議し決めれば良い。

○布施委員

一つの例で、石見神楽伝承内容検討専門委員会を今やっている。コンサルタントに事業を委託して12月には意見書が出てくると思う。本年度にそれをもって来年度の予算が来たとき、委員会をまたぐ部分が出てくる可能性がある。検討委員会なら総務文教委員会関係になる。跡地利用や建物という段階になったときには、予算が出てきたと仮定したら産業建設委員会の問題。こうなるときには前の事業を踏まえて検討しないと、ただそれだけの事業をやろうと思ったら難しい部分もあると思う。そういったものも加味しながらやらないと難しい評価になるのではないかと。議員連盟の中でも、文化伝承はやるべきだとの話があるが、建物だと委員会内でも評価が分かれているので難しいかと思う。難しいところに挑戦するのが議会なので、やるべきだと思う。

三浦委員がおられないので拝見したが、予算審査では各委員が一つの事業にいろいろな方向から質疑するのは良いが、決算審査のときには委員会としての事業評価をするわけだから、代表かもしくは一人か二人。皆が同じようなことを質疑しなくても良いのではと感じた。

○牛尾委員長

歴史資料館の予算が上がるとしたら予算決算委員会だろうし、事務事業評価は新規事業については控えて、それは予算審査でやるべきだろうと思う。例えば1、2年経過した後の評価については事務事業評価になると思う。

○布施委員

新規事業についてはそうだと思う。ただ、検討委員会の予算が多い少ないから始まって、市長、教育長に検討委員会の提言書まで出るのだから1年経過している。予算から考えれば2年目である。そういうことを踏まえて検討委員会がどうだったかをやったところで、意見書が出ているからそれを踏まえて新規事業が進んでいくので、それを踏まえて新規事業でも関連性がある予算の中で今までやってきた分を評価しつつ、新規事業だとしても評価すべきではないかという思いで言った。

○牛尾委員長

決算審査の質疑のあり方について。今回は試行だから所管委員会で決めたことは全員聞かなければいけないということだったが、少し重なる部分があり過ぎたと反省している。逆に、皆が聞いたからいろいろな視点で深掘りはできた。大まかに持って帰る内容は、3月定例会議くらいで事業を一つ以上選択し、委員会の総意で決めてもらう。導入についてはそのような認識でよろしいか。

○小寺書記

入り口が良いが、同じ資料の5ページを見てほしい。こういったことを持ち帰って協議してもらったらどうかということを確認しており、大きく5項目ある。まずは評価シートの様式がどうだったか。おおむねアンケートの中では評

価シートは良かったという意見だったと思うが、改めて会派内で確認してもらったらどうかと思って1点目に上げている。

2点目が、一つの事業の評価意見書を作るに当たって必要な時間ということで。今回各常任委員会から1事業を出してもらったが1時間を超えた。事業を増やしたらどうだろうか。皆でされるときに想定として何時間くらいはあったほうが良いか確認いただけたらどうかと思った。

3点目は、作成した評価意見書の取扱い方法。これはもともと出てきた評価意見書をそのまま議案として執行部へ提出する想定でいたが、今回の試行に当たり附帯決議に組み込んだ。そのやり方がどうだったかと、当初の意見書を提出するやり方で良いのか。認識としてばらつきがある部分かと思ったので、ここは会派でしっかり話してもらったほうが良いかと思う。

4点目として、執行部へ提供を求める事項。一つの事業に対してある程度議員の皆が同じ目線で見られるものがあって良いのではないかという話が執行部との協議内でも出た。もともとは主要施策等実績報告書に当該事業を載せてもらう想定だったが、そうではなく、選出した事業の目的やどういった事業か、これまでの過去の経緯があれば事業費がどう推移していたのか、この事業に対して執行部が思っている課題はどのようなことか、といったことを一律で出してもらう方法が良いかと思っている。どういった項目を盛り込むべきかということがあったほうが良いかと思っている。

最後にその他懸念事項として、それまでの協議や皆で試行されてみてどうだったか。上記4項目以外で気になったところがあれば会派内で出してもらえば良い。

先ほど、評価事業数は三つ以内とか、少なくとも一つ以上はという意見があったかと思うが、運用の詳細がある程度固まったところで改めて数を検討すると正副委員長と話している。数によって必要な時間も変わってくると思うので、どのくらいの時間を要するかと事業数の兼ね合いは、最終的なところでバランスを取っていく形になるのかと思っている。持ち帰っていただく事項についてはいかがか。

○牛尾委員長

会派へ持ち帰る項目について説明があった。選択する事業数によってもまとめの時間は違うだろう。評価シートに対する改善点などはあったか。まだ意見を伺ってない。どうだろうか今回の評価シートは。違和感はあまりなかったか。

(「はい」という声あり)

試行にせよ本格実施にせよ、立ち上げなのでゆっくりやるしかないかと思う。では評価シートはこのままで持ち帰って会派で意見調整してもらい、こうしたほうが良いのではという意見が会派内で出ればそれを持ち寄ってもらう。

2番目の、一つの事業の評価意見書に必要な時間。1時間程度は要するという意見が結構あった。例えば事業は最低一つ以上ということであれば、常任委員会によって二つ三つやればその分時間は必要になる。各常任委員会がどこかで時間を取ってもらってやるしかないのだろうと思う。そういう理解でよろしいか。

(「はい」という声あり)

ではそういう持ち帰り方をしてもらって、各常任委員会が複数選べばそれだけ時間が必要と説明してもらいたい。

(三浦委員入室)

三浦委員少し先に進めている。今は持ち帰り事項の検討。評価シート様式の改善点と2番の一つの事業の評価意見書作成時間まで終わったが、何かあれば。

○三浦委員

いえ。

○牛尾委員長

次が作成した評価意見書の取扱い方法。今回僕も言ったが、産業建設委員会が先行し過ぎたかと思うが、委員会内では結構いろいろな議論があって相当突っ込んだことをやったので、それはそれで附帯決議に入れてほしいと。被る事業も結構あったし、結果を出すために事業をまとめるべきではないかという意見が委員会としてまとまったので、あのような言い方をした。試行にも関わらずあのようなことを言ったのでほかの委員会との認識と乖離があり、違和感があったのだろう。最終的には事務局に迷惑を掛けた。どちらにしてもここは各委員会の中で議論してもらい、それが次の段階に行くかは全体で議論することになる。流れについてはそういうことでよろしいか。

(「はい」という声あり)

では4番目の執行部へ提供を求める事項。これは小松島市のサンプルだが、この程度なら執行部にもそれほど負担にならないのだろうか。

○小寺書記

負担と言われると、まだそこまでの協議が執行部とはできてないので、実際議会としてはどれくらいのもを出してほしいかということが出たときに、負担には当然なると思う。今までしてなかったことを求めることになる。

○牛尾委員長

執行部に求める事業目的、事業内容、事業費推移等々、これで良いのか。こういうことも要求したほうが良いのではないかということがもしあれば、持ち帰って会派内で少し議論してもらえるか。ここも会派の意見と統一が必要だろうから。

○小寺書記

提供を求める事項なのだが、皆が事務事業評価をするに当たりしっかり評価ができるためにはどういったことをベースで知っておきたいのかが必要だと思う。そういった視点も持ってもらい、一律で分かった上で評価するための基準みたいに考えていただければ良いかと思う。よろしく願います。

○牛尾委員長

我々が事務事業評価をするに当たりこれは必要だということがあれば、ぜひ会派で話をしてもらい、次回提案していただくようお願いする。

その他の懸念事項は先ほどから言っていた。右側に本格実施に当たってのスケジュール、シミュレーションが書いてある。ほぼこういう流れで議論してきたので、この流れで良いか。先ほどから議論してもらったようなことが書いてあるので、そうい

う流れで皆に持ち帰ってもらって了解してもらい、これ以上に付け加えることがあればこちらに出していただければ。

○佐々木委員

事業選定をする3月中旬の定例会議の中のどのタイミングでやるかどうかは、まだ具体的なことはせず、大まかで良いか。

○小寺書記

タイミングはいろいろあるかと思っている。まず令和7年度に事務事業評価をするということは令和6年度の事業を評価するということである。したがって令和7年3月の時期は令和6年度の終わり部分なので、令和6年度の事業をおおむね1年間執行した状況でどういった事業を選定するかだと思う。今回の試行でやったように常任委員会で選んでもらうのであれば3月定例会議の初日の3常任委員会もあるし、先ほど佐々木委員が定例会議期間中の委員会だとなかなか時間が取れないかとも言われたが、3月定例会議期間中の3常任委員会も想定はしていた。各常任委員会から選ばずに予算決算委員会でぶっつけでもできなくはないと思う。3月の予算決算委員会は複数日あるので、その最後の日に皆で協議するといったやり方もできるかとは思っている。

○牛尾委員長

常任委員会で決めるべきだろうという流れが良いのではないかと思う。例えば初日に常任委員会があるが、常任委員会の日に今年の事務事業評価はどういう事業にするか、次の常任委員会までに各自まとめてきて、常任委員会の日に発表してもらい全員で共有して最終的に決めるという流れが良いような気がするのだがどうだろうか。

○田畑委員

そのようなやり方のほうが良いと思う。

○佐々木委員

陳情、請願、議案の数によっては、ほとんど丸一日要することもある。その後にもまた決めるとなるとかなり労力も要することを想定しておかないといけない。となると初日が一番時間を取りやすい。それまでに皆が課題を頭に入れて臨むかどうかだと思う。

○小寺書記

佐々木委員が言われた部分はそうだと思う。牛尾委員長が言われたように、初日に頭出しして審査の日の3常任委員会で決めるやり方もあるし、佐々木委員が言われたように時間が取れる初日でやるというのであれば、皆がそのような意識をもって臨んでいただければそれはそれでできるものかと思った。

○牛尾委員長

どちらにしても委員会内でうまく決まれば良いわけで、各委員が選定をする時間的な余裕をどこかで考えてないと、全員が初日に準備できれば良いが、どこかでアクションしておく必要があるのではないかと思う。

○小寺書記

例えば佐々木委員が言われた、初日の3常任委員会で決めるのであれば、その前の

全員協議会でアナウンスはできるかと思う。最終的には予算決算委員会でやるので、3月の予算決算委員会最終日に全体で事業を決めることは必要になるかと思う。

○牛尾委員長

今年のカレンダーを見ると2月6日に全員協議会がある。ではそういう流れで良いだろうか。3月定例会議に入る前の全員協議会のときに、初日にやるから準備してと。

○三浦委員

遅参、失礼した。日程の話だが、特別委員会が主導で日程も含めて議論しているので、この委員会から全議員あるいは全委員会に対してアナウンスするのはもちろんだと思うが、最終的にどこかのタイミングまでに委員会ごとにどの事業について評価するのかが出ていけば、作業的には問題ないかと思う。ギリギリにならないよう、委員会ごとにどの事業を評価しようか議論していただくよう、この委員会からアナウンスしながら、各委員会のペースで適宜やっていただいても良いかと個人的には思った。もちろん一律ということなら締切りも同じように設けられるのでやりやすいというメリットはあるかと思う。

○牛尾委員長

その辺も含めて会派内で少し議論してもらいたい。

○西田副委員長

3月定例会議前の各常任委員会という、毎年1月の終わり頃である。そのときにテーマの頭出し程度でも話を出されていたら良いかと思う。忙しい時期ではあるが。

○牛尾委員長

いろいろ意見は出たが、会派で少し議論してもらいたい。どちらにせよ決まると委員長名で各会派か、もしくはLINE WORKSで全議員にもアナウンスしても良いかと思った。会派でまとめをしてもらって、次回ここで発表してもらおうという流れでよろしく願います。以上でよろしいか。

○小寺書記

三浦委員も来られたので、試行の感想など最初に皆に伺った内容を三浦委員にも確認いただければと思う。

○牛尾委員長

願います。

○三浦委員

アンケートの感想にも書かせてもらったが、今回の取組は良かったと思う。試行前から申し上げていたが、一つの事業に対して全議員で評価できる、それを同じ視点を持ってやるというのが事業評価のポイントかと思っていた。複数の議員がその事業に対して質疑される中で自分が気付かなかった部分、多角的な質疑がされたのではないか。新たな気づきを得られた。

一方で、事業評価を行う時間が短かったようにも感じている。しっかり評価したものを執行部にどう返すかが大事なので、議員間でどういう評価をするかのまとめが非常に重要、かつ、もう少し時間を確保するべきではないかと思った。

それから、予算決算委員会での質疑のあり方だが、自由に各委員が関心のある事業に対して質問通告をしているが、所管する委員は全員がその項目に対して質疑する必要があるのか。少ないものもあったし、ほぼ全員がやった事業もあった。委員会によって濃淡があったように思う。ルール化する必要があるかどうかは別にして、多角的な質疑をそこで展開し評価に結び付けていくプロセスは見直す必要があるのではないかと思う。しかしながら、総じてこの取組は議会視点を持って事業を評価していくという視点では、議会機能をきちんと議会の場で表に表現するという意味で、非常に重要な取組だと振り返った。

○牛尾委員長

三浦委員の言われたように、一つの事業の評価意見書の作成に必要な時間については各会派で議論を。十分やらなければ意味がないので、そういうことも会派に持ち帰って議論してまとめていただくようお願いする。

選んだ事業を全員が質疑しなければいけないというのは、試行なのでそういうやり方をしたが、あそこまでしなくても良いように思った。執行部に提供を求める事項について、もう少し我々が求めているものが報告書で分かるように出てくれば、もう少し割愛できるのではないかと思う。それも会派で議論してもらいたい。あの辺がカットできれば、全体のタイムスケジュールは緩やかになるのかと思う。持ち帰り事項にボリュームがあるが、よろしく願います。

ここままで皆から何かあるか。

(「なし」という声あり)

2 島根県立大学との連携について

(1) 包括協定締結の検討状況

○牛尾委員長

議長から願います。

○議長

10月4日に副理事長が来庁され話をしたが、やはり一議会との包括協定の締結は難しいとの回答を得た。ただし、議会が望んでいること、県大が望んでいることで引き続きしっかり協力はしていきたいとのことなので、市を通さずとも議会と大学同士のやり取りも今後可能ではないかと考えている。

○牛尾委員長

正副委員長も一緒に行った前副理事長と、新しい副理事長は少しタイプが違う。議長の報告にあったように非常に積極的で、つい先般も商工会議所で講演をされた。それは、大学と会議所で共通したプラットフォームで何かやったらどうだろうかという非常に前向きな話だった。今後とも大学とは市の協定に基づく中で議会と大学という交流していけば良いのではと思う。

皆から何か意見はあるか。

(「なし」という声あり)

3 その他

(1) 検討項目の整理

○牛尾委員長

事務局から説明をお願いします。

○小寺書記

(以下、資料を基に説明)

○牛尾委員長

残り1年でやっておきたいことがもしあれば、次回でも構わない。一応次回、正副委員長で検討しながら何か肝になるようなテーマがあれば皆にまた披露して、それをやるべきかどうかの意見をいただきたい。

今日は以上で閉めたいと思うが、次回の日程について協議したい。

(以下、日程調整)

では次回の日程は11月26日火曜日の午前10時ということで、よろしくをお願いします。

○小寺書記

議題としては先ほどの、議会による事務事業評価について会派で協議してもらった内容を披露いただきたいということと、先ほどの検討項目の中からピックアップして議題にできたらと思っているので、よろしくをお願いします。

○牛尾委員長

局長、次長良いか。ほかに何かあるか。

(「なし」という声あり)

では以上で第41回議会改革推進特別委員会を終了する。

[11 時 13 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会改革推進特別委員会委員長 牛 尾 昭